

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 第38回大会報告
- 会員異動
- 日本農薬学会第39回大会での広告、展示およびランチョンセミナー募集のご案内
- 「技術士」資格取得のお勧め
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細

本会記事**平成25年度第1回常任評議員会議事録**

日 時：平成25年4月27日（土）13:00～17:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員 計13名（欠席1名）

議 事：

- I. 平成24年度第5回常任評議員会議事録，第38回通常総会議事録，第39回評議員会議事録について確認した。
 - ・日本植物防疫協会の学会に対する支援要領について確認した。
 - ・日本農薬学会出納事務及び預貯金資産管理取扱内規について確認した。
 - ・名誉会員の推挙についての内規の検討について説明があった。
- II. 経過報告および議事
 1. 財務関係
 - ・平成25年度収支の現状（平成25年4月24日現在）について順調に推移している旨の報告があった。
 2. 編集委員会
 - ・平成25年度の投稿審査状況について報告があった。
 - ・第38巻の英文誌（1号，2号）と和文誌（2号）の掲載内容，発送予定および電子ジャーナル公開の状況・予定について説明があった。
 - ・分冊化に伴い和文誌はJ-STAGEに新規のWebペー

ジを設け公開する。

- ・論文賞候補論文選考の作業予定について報告があった。
3. 環境委員会
 - ・環境委員会の活動方針について説明があり承認された。
 - ・残留農薬分析Q&Aセミナー（第1回）の開催と第2回の予定について報告があった。
 4. 将来計画委員会
 - ・前期将来計画委員会から申し送り事項の検討について報告があった。
 5. ホームページ委員会
 - ・平成25年度の活動予定について報告があった。
 6. 学会賞受賞者選考委員会
 - ・平成25年度の活動予定について報告があった。
 7. 日本農学会関連
 - ・平成25年度日本農学会シンポジウムの開催予定の報告があった。
 - ・平成26年度日本農学会シンポジウムのテーマの提案募集について説明があった。
 8. 国際会議関連
 - ・2014年に開催される第13回国際農薬化学会議（サンフランシスコ）の説明があった。
 9. 学術会議関連
 - ・5学会で連携し，マスタープランを提出した旨報告があった。
 10. 専門委員・学術小集会委員について
 - ・各専門委員会委員が承認された。
 - ・各学術小集会委員が確認された。
 - ・学術小集会に関する規定について検討し，委員長の名指し・承認手順について明確化することとした。
 - ・学術小集会活動経費取扱に関する申し合わせについて説明があった。
 11. 会員情報管理システムについて
 - ・3月から稼働している会員情報管理システムについて説明があった。
 - ・次回の役員選挙ではWeb選挙に移行した場合でも紙媒体での投票との併用が予想される旨説明があっ

- た。
12. 研究会の協賛について
 - ・平成25年6月28日（金）に理化学研究所横浜研究所（神奈川県横浜市）で開催予定の構造活性フォーラム2013を協賛することを承認した。
 - ・平成25年9月26日（木）に北とぴあ（東京都北区）で開催予定の第28回報農会シンポジウムを協賛することを承認した。
 - ・平成25年10月17日（木）～18日（金）に岐阜都ホテル（岐阜県岐阜市）で開催予定の第30回製剤と粒子設計シンポジウムを協賛することを承認した。
 13. 入退会の報告（平成25年3月1日～平成25年4月15日）
 - ・入退会が承認された。入会は正会員18名，学生会員1名，海外会員1名。退会は終身会員1名，正会員1名，学生会員1名。
 - ・会費未払いによる会員の除籍を減らす方向で事前に対応していく旨説明があった。
 14. 大会関係
 - ・大会要旨を転載許可およびポジトリ申請の対象とすることが承認された。
 - ・第38回大会の収支の報告があった。
 15. 第40回記念行事について
 - ・記念大会および記念事業について今後検討していく旨説明があった。
 16. 学会の法人化について

- ・法人化について移行手続きと運営に関する情報収集を進めていく旨説明があった。
17. その他
 - ・男女共同参画学協会連絡会への対応について説明があった。

日本農薬学会第38回大会報告

日本農薬学会第38回大会は去る3月14日（木）～16日（土）、筑波大学・大学会館および第3エリアA棟において開催されました。正会員，学生会員，名誉会員，終身会員，維持会員などに加え，関連学会（植物病理学会，応用動物昆虫学会から12名）や非会員（117名）の参加があり，参加者総数は550名となりました。初日には学会賞受賞者講演5題と特別講演2題，第2，第3日には一般講演90題の発表と，3つのシンポジウムおよび4つのランチョンセミナーが行われました。いずれの会場も大勢の参加者により活発な議論が展開されました。特に，最終日のシンポジウムまで多数の方が出席していただき，盛会裡に終了できたことは大変うれしいことでした。また，展示は10社に行っていました。収支決算も良好で，下記のとおりとなりました。ご協力を頂いた参加者各位，特別講演やシンポジウム講演などを引き受けてくださった方々ならびにご支援頂いた企業各社に対し厚く御礼申し上げます。

日本農薬学会第38回大会組織委員会委員長
松本 宏

日本農業学会第38回大会収支報告書

科目	金額(円)	備考
収入の部		
1. 大会参加費	2,623,000	[有料参加者数] 大会 懇親会
2. 懇親会参加費	1,004,000	正会員 261 185
		関連学会員 12 1
		非会員 117 50
		学生会員 32 19
		合計 422 255
3. 講演要旨集売上代金	15,000	5冊
4. 広告収入	550,000	13社
5. 企業展示	510,000	10社
6. ランチョンセミナー開催費(含 弁当代)	1,000,000	4社
7. 企業協賛金	80,000	2社
8. 雑収入	84	預金利息
収入合計	5,782,084	
支出の部		
1. 大会運営費(含 機材・看板, 臨時バス代等)	822,894	
2. 懇親会費	1,588,000	筑波大学食堂
3. 印刷費	444,675	佐藤印刷
4. 事前申込システム管理費	472,300	トップツアー
5. 弁当代	486,100	ランチョンセミナー等
6. 謝金・旅費	718,660	
7. 通信・郵送費	18,130	
8. 運営委員会経費	299,057	
9. アルバイト雇用費	408,200	
10. 過払者への返金	21,000	
11. 会場使用料	0	
支出合計	5,279,016	
収支差額	+503,068	

なお、差額分(残金)の503,068円は学会本部に送金いたしました。



写真1 名誉会員(右端は宮川前会長)



写真2 平成25年度学会賞受賞者(後列右端は宮川前会長)

会 員 異 動

(平成25年3月1日～平成25年4月15日)

入会

正会員

和田 哲夫 林 伸行 眞鍋 勝行 田中 啓介
藤巻 彰 古屋 真彩 榎元 清美 尾田 拓麻
内藤 知佳子 井澤 典彦 青山 雅一 佐々木 秀幸
釜谷 拓和 信田 晃佑 田中 仁詞 矢島 新
佐藤 巧二 吉永 直子

学生会員

東浦 智也

海外会員

石川 理恵子

(受付順)

退会

終身会員

坂井 道彦

正会員

小山 太

学生会員

瀧本 善之

日本農薬学会第39回大会での広告、展示 およびランチョンセミナー募集のご案内

日本農薬学会第39回大会は、以下の日程・会場で開催されます。

日 程：平成26年3月13日（木）～3月15日（土）

会 場：京都大学・百周年時計台記念館および農学部総合館

つきましては、講演要旨集への広告掲載、展示会への出展、およびランチョンセミナー開催等で本大会へのご支援を賜りたくお願い致します。各応募の詳細および申込先等につきましては学会ホームページ (<http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>) に掲載していますのでご参照ください。

日本農薬学会大会の成功のため、大会の主旨にご賛同いただき、ぜひともご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本農薬学会第39回大会組織委員会委員長
京都大学農学研究科
三芳秀人

「技術士」資格取得のお勧め

技術士とは、文部科学省の登録を受け、技術士の名称を用

いて、科学技術の高度な専門的应用能力を必要とする事項について、計画・研究・設計・分析・試験・評価、またはこれらに関する指導業務を行う者をいいます。

技術士は科学技術のコンサルタントです。技術に関する研究・開発・設計・評価の指導や相談、製品の品質や製造工程の効率改善、プロジェクト計画の策定や管理、事故の原因調査や損害査定などを行います。

「技術士とは」((社)日本技術士会 Webサイトより)

技術士には、農業部門など21の部門があり、農業部門には「畜産」「農芸化学」「農業土木」「農業及び蚕糸」「農村地域計画」「農村環境」に加えて、平成16年度から「植物保護」が新設されました。

日本農薬学会はこれを受けて、日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本雑草学会、植物化学調節学会などと連携して、「技術士に関する委員会」を設置し、学会員の技術士（農業部門・植物保護）の国家資格の取得推進を目指して活動を行ってきました。そして平成20年4月からは名称を「技術士育成推進委員会」に変更して、技術士（農業部門・植物保護）の育成と社会での活躍を支援しています。会員の皆様には、技術士試験に積極的にチャレンジしていただき、本学会から多くの技術士が誕生することを期待しています。

技術士合格者

平成24年度は、技術士第二次試験（農業部門・植物保護）に、日本農薬学会から、安宅 雅（アタカ マサシ）さん（バイエルクロップサイエンス（株）生物開発部）が見事合格されました。

平成25年度の技術士第一次試験は、平成25年10月14日（月・祝）に行われます。技術士第二次試験は、既に平成25年8月4日（日）に行われておりますが、毎年一回、8月上旬に実施されております。尚平成25年度より、第一次試験の共通科目と第二次試験の技術的体験論文が廃止されるなどの変更がなされております。詳細は日本技術士会のホームページ (<http://www.engineer.or.jp/>) をご覧ください。

〈参考〉

(はじめに)

平成16年4月1日、技術士（農業部門・植物保護）が誕生した。それ以来、日本農薬学会、日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本雑草学会、植物化学調節学会は委員会を設置し、技術士試験の受験奨励を行うとともに技術士（農業部門・植物保護）の社会での活躍の促進について積極的に取り組んできた。技術士（農業部門・植物保護）が社会で活躍するに当たり、どのような知識、技術を有する必要があるのか具体的に検討し、以下のように取りまとめた。これらの

事項を習得した技術士（農業部門・植物保護）が社会で活躍し貢献することを期待する。

（技術士の資質と責務）

- 食料，農業，農村に関する幅の広い知識
- 植物（作物・樹木等）の病害，虫害，雑草の診断や同定に関する知識と技術
- 病害，害虫，雑草の発生態と防除に関する知識と技術
- 病害，害虫，雑草の総合防除等に関する知識と技術
- 農薬取締法，農薬登録のしくみ，農薬の安全性に関する知識
- 農薬の種類，作用機構に関する知識
- 農薬の使用方法に関する知識と技術
- 作物の栽培・生産・貯蔵に関する知識と技術
- 遺伝子組換え技術に関する知識
- 食品の安全に関する知識
- 環境保全に関する知識
- 日本技術士会が定めた技術士倫理要綱および技術士ビジョン21に記載されている技術士の倫理や役割・義務・責任の遵守。

（技術士育成推進委員会）

日本農薬学会，日本植物病理学会，日本応用動物昆虫学会，日本雑草学会，植物化学調節学会の5学会が設置した委員会である。

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛する会議等

2013年

9月

2日（月）～4日（水）10th International Symposium on Agglomeration

会場：神戸学院大学 [〒650-8586 兵庫県神戸市中央区港島1-1-3]

U R L : <http://www.pharm.kobegakuin.ac.jp/~seizai/Agglos10.html>

12日（木）～13日（金）第33回農薬製剤・施用法研究会

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
会場：静岡県コンベンションセンター／グランシップ [〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>

26日（木）第28回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン—2013』生産環境の変化と作物保護技術の再評価

主催：公益財団法人 報農会
協賛：日本農薬学会等

会場：「北とびあ」つつじホール [〒114-8503 東京都北区王子1-11-1]

U R L : <http://www.honokai.org>

10月

17日（木）～18日（金）第30回製剤と粒子設計シンポジウム

主催：粉体工学会・製剤と粒子設計部会

協賛：日本農薬学会等

会場：岐阜都ホテル [〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光2695-2]

U R L : <http://pssj2.jp/calendar/thisyear.html>

22日（火）～24日（木）34th Symposium on Pesticide Formulation and Delivery Systems

会場：Hyatt Regency Jacksonville Riverfront（米国，フロリダ州）

U R L : <http://www.astm.org/SYMPOSIA/>

24日（木）～25日（金）第36回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会 農薬残留分析研究会

会場：にぎわい交流館AU（あう）[〒010-0001 秋田県秋田市中通一丁目4番1号]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu36.html>

11月

7日（木）～8日（金）第41回構造活性相関シンポジウム

主催：日本薬学会構造活性相関部会

協賛：日本農薬学会等

会場：関西学院会館 [〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155]

U R L : <http://sar2013.dm-lab.info/index.html>

8日（金）第28回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会

会場：メルパルク京都 [〒600-8216 京都府京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/design/design28.html>

21日（木）～22日（金）第31回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会 農薬環境科学研究会

会場：エクシブ琵琶湖 [〒521-0004 滋賀県米原市磯1477番2]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky31.html>

12月

9日(月) 第21回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主催：日本農薬学会 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

会場：東京農業大学 百周年記念講堂 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

URL: <http://pssj2.jp/committee/regula/regula21.html>

2014年

3月

13日(木)～15日(土) 第39回日本農薬学会大会

主催：日本農薬学会

会場：京都大学

URL: <http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>

9月

11日(木)～12日(金) 第34回農薬製剤・施用法研究会

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

会場：神戸国際会議場国際会議室 [〒850-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]

URL: <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai34.html>

学会主催会議等の詳細

第33回農薬製剤・施用法研究会

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会

協賛：農薬機械学会, 日本雑草学会, 紛体工学会, 日本化学会, 高分子学会, 色材協会, 日本油化学会(予定)

日時：平成25年9月12日(木)～13日(金)

会場：静岡県コンベンションセンター／グランシップ [〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4]

TEL: 054-203-5710 FAX: 054-203-5716 (代表)

<http://www.granship.or.jp/>

定員：250名

URL: <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>

プログラム：

9月12日(木) 13:00～17:00

特別講演-1 「Low Loss Crop Protection—A System for More Efficiency and Safety in Pesticide Application in Top Fruit and Vines」
Peter Triloff (Marktgemeinschaft Bodenseeobst, Germany)

技術研究発表-1 講演時間1件当たり15分

特別講演-2 「The Relationship of Nozzle Parameters, Droplet Characteristics and Relative Spray

Drift of The Air Inclusion Nozzle Using in Japan」 Bai Geng (白更) (Agricultural Department, Niigata University, Niigata, Japan)

特別講演-3 「我が国における農薬散布機の現状と今後の展望」 宮原佳彦 ((独) 農業・食品産業総合技術研究機構)

ポスターセッション

懇親会 18:00～20:00

9月13日(金) 9:00～16:00

特別講演-4 「The Role of Pesticide Liquid Physical Properties in The Optimisation of Spray Performance for Efficient Atomisation, Retention and Targeting in Row, Tree and Vine Crop Spraying」

Andrew J. Hewitt (Lincoln University, Christchurch, New Zealand)

技術研究発表-2 講演時間1件当たり15分

特別講演-5 「環境省における農薬の大気経路による影響評価について」 伊澤航 (環境省 水・大気環境局農薬環境管理室), 芳賀俊郎 (農林水産航空協会)

技術研究発表-3 講演時間1件当たり15分

参加申込み：

1) 参加申込み方法

所定の「参加申込書」を研究会ホームページ (<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>) からダウンロードし、所属、氏名(フリガナ)、連絡先等の必要事項を明記の上、平成25年6月14日(金)までにE-mail、ファックスまたは郵送で下記にお申込み下さい(参加者名簿の誤植を防止するうえで可能な限り電子ファイルでの送信をお願い致します)。なお、発送事務等の省力化のため、会社・事業所・研究機関等の単位で代表者を取りまとめの上、一括してお申込み下さるようお願い致します。

大会運営の都合上定員(250名)になり次第、締め切らせていただきますのでお早目の申込みをお願いします。申込み期限を過ぎますと、早期割引料金が適用されませんので、ご注意ください。

シンポジウム参加申込：

申込み先：竹本油脂株式会社 第四事業部 研究開発部内
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局
参加申込み担当

近藤 勝義 (コンドウ カツヨシ) 宛

〒443-8611 愛知県蒲郡市港町2番5号

TEL: 0533-68-2113 FAX: 0533-68-1461

E-mail: seizai33@tkc.takemoto.co.jp

2) 参加費

(1) 6月14日までに申込みの早期割引料金(終了しました)

①日本農薬学会及び協賛学会(協会)会員の場合
17,000円(内 研究会費12,000円, 懇親会費5,000円)

②上記学会の会員でない場合:
18,000円(内 研究会費13,000円, 懇親会費5,000円)

(2) 6月15日~当日参加申込みの通常料金
21,000円(内 研究会費16,000円, 懇親会費5,000円)

なお、一日のみの参加、及び、懇親会の参加有無にかかわらず、参加費は一律(研究会費+懇親会費)です。

3) 参加費振込

参加申込み後は、下記振込み口座に参加費をお早めに振込み頂きますようお願い致します。なお、一度振込まれました分は返金できませんのであらかじめご了承下さい。入金確認後に、折返し参加確認および参加費振込確認書を送付致します。[参加申込書](研究会ホームページからダウンロード)にてお受け取り方法(E-mail, 郵送又はFAX)をご指定ください。なお、参加申込み、入金確認書をもって領収書とさせていただきます。

振り込み先:三菱東京UFJ銀行 駒込支店(店番号061)

普通 口座番号:0020365

口座名:農薬製剤施用法研究会(ノウヤク
セイザイ セヨウホウ ケンキュ
ウカイ)

技術研究発表申込み:(終了しました)

宿泊等:

事務局での宿泊手配は行っておりません。ご出席の皆様各自にてホテル等ご予約をお願い致します。また、2日目の昼食は、事務局が弁当を用意いたします。

事務局:

[シンポジウム全般に係わるお問合せ]

クミアイ化学工業株式会社 製剤技術研究所内
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム 事務局
藤田 茂樹(フジタ シゲキ)宛
〒424-0053 静岡県静岡市清水区渋川100番地
TEL: 054-345-3163 FAX: 054-346-3284
E-mail: seizaiseyoho33@kumiai-chem.co.jp

[参加申込, 参加費に関するお問合せ]

竹本油脂株式会社 第四事業部 研究開発部内
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局 参加申込み担当
近藤 勝義(コンドウ カツヨシ)

〒443-8611 愛知県蒲郡市港町2番5号

TEL: 0533-68-2113 FAX: 0533-68-1461

E-mail: seizai33@tkc.takemoto.co.jp

[技術研究発表・ポスターセッションに関するお問合せ]

日本曹達株式会社 小田原研究所 製剤研究部内
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局

鈴木 雅博(スズキ マサヒロ)

〒421-0412 静岡県牧之原市坂部62-1

TEL: 0548-29-0611 FAX: 0548-29-0631

E-mail: oda-formulation@nippon-soda.co.jp

第36回農薬残留分析研究会

主催:日本農薬学会 農薬残留分析研究会

日時:平成25年10月24日(木)~25日(金)

会場:にぎわい交流館AU(あう)[〒010-0001 秋田県
秋田市中通一丁目4番1号]

TEL: 018-853-1133 FAX: 018-884-4788

<http://www.akita-nigiwai-au.jp/>

交通:JR秋田駅西口より徒歩10分, 秋田空港からJR秋田
駅西口までリムジンバスで約40分。

定員:200名程度

URL: <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanry36.html>

プログラム:

10月24日(木)

13:00~

シンポジウム「昨日より上質の分析を目指して」

- ・米国での残留分析並びに精度管理の現状(仮)(ミネソタ州農務省 ジョンソン渋谷洋子)
- ・GC/MS分析におけるマトリックス効果について(仮)(アジレント・テクノロジー株式会社 杉立久仁代)
- ・マスシフト法によるフラグメント解析(仮)(愛知教育大学 中田尚男)

特別講演

「農地の重金属汚染対策と安全な農産物供給の取り組みについて」秋田県農林水産部農業試験場

18:00~

情報交換会(会場:秋田キャッスルホテル)

10月25日(金)

9:30~

一般講演, ポスターセッション, 企業展示

12:00~

エクスカージョン(農業試験場, ダリア園及び酒蔵などを見学予定)

(16:00頃 秋田空港着, 16:20頃 JR秋田駅着)

※プログラムの詳細版は、9月に学会ホームページにて案

内予定です。

参加申込み：

上記URLより「参加申込書」をダウンロードし、必要事項を入力の上、メールもしくはFAXにて日本農薬学会農薬残留分析研究会事務局（E-mail: pssj.residue.analysis@gmail.com, FAX: 042-372-6990）宛にお申込みください。受付後、確認メールが返信されます。なお、事前参加申込み期限は9月20日（金）、参加費の振込期限は10月4日（金）です。振込期限以降の支払いは、当日支払い扱いとなりますのでご注意ください。参加費振込み後に参加をキャンセルされた場合、会計の都合上、参加費の返金は出来かねますのでご了承下さい。また、エクスカッションへの参加は、バスの定員（45名）に達し次第終了とさせていただきます。

企業展示申込み：

企業名および連絡担当者名をメールにて日本農薬学会農薬残留分析研究会事務局（E-mail: pssj.residue.analysis@gmail.com）宛にお申込みください。受付後、確認メールが返信されます。なお、企業展示のお申込みは員数に達し次第終了とさせていただきます。

開催幹事（順不同）：

北原由美（一般財団法人日本食品分析センター）
伊藤功一（秋田市保健所）
石坂真澄（独立行政法人農業環境研究所）
山本幸洋（千葉県農林総合研究センター）
中村直紀（公益財団法人日本植物調節剤研究協会）

第28回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会
日 時：平成25年11月8日（金）11:00～
会 場：メルパルク京都〔〒600-8216 京都府京都市下京
区東洞院通七条下ル東塩小路町676番13〕 JR京都
駅より徒歩5分
TEL: 075-352-7444
<http://www.mielparque.jp/kyoto/>
交 通：JR京都駅より徒歩5分。
定 員：200名程度
U R L： <http://pssj2.jp/committee/design/design28.html>
テーマ：21世紀を担う農薬をデザインする ～そのヒント
を求めて

プログラム：

10:00～ 受付
11:00～11:10 開会の挨拶 農薬デザイン研究会実行委員
長 中川好秋
11:10～12:00 講演1「キノンの二量化を基軸とした有用
化合物の合成研究」 倉持幸司（京都府立

大学大学院生命環境科学研究科）

12:00～13:15 昼休み
13:15～14:05 講演2「遷移金属触媒を用いないクロスカップリング反応」 白川英二 京都大学大学院理学研究科）
14:05～14:55 講演3「カルシウム放出チャンネルリアノジン受容体の創薬標的としての可能性」 森泰生（京都大学大学院地球環境学堂環境適応生体システム論分野工学研究科 合成・生物化学専攻 分子生物化学分野）
14:55～15:05 休憩
15:05～15:45 講演4「新規殺ダニ剤ピフルブミドの創製（仮題）」 古谷 敬（日本農薬株式会社総合研究所）（予定）
15:45～16:00 休憩&ポスター会場設営
16:00～17:30 ポスター発表
17:40～19:30 懇親会

ポスター発表：

合成、生物活性、構造活性相関を中心に農薬研究／開発に関わるポスター発表を募集します。

ポスター演題申込み：

平成25年8月30日（金）締切り

要旨（A4 1枚）：

平成25年8月30日（金）締切り

参加登録費：

（要旨集代、懇親会費を含む。懇親会不参加の場合、学生を除き5,000円引き。）

一般 15,000円（非会員18,000円）
公的研究機関 10,000円（非会員12,000円）
学生 3,000円

参加申込み締切り：

平成25年10月4日（金）

申込み方法：

官製はがき、FAXまたはE-mailで氏名、所属、連絡先（住所、電話、FAX、E-mail）及び会員、非会員の別、懇親会の出欠を明記し、下記にお申し込みください。

申込み先：

第28回農薬デザイン研究会事務局
日本農薬株式会社総合研究所合成ユニット 日野 智和
〒586-0094 大阪府河内長野市小山田町345
Tel: 0721-56-9000 Fax: 0721-56-9090
E-mail: hino-tomokazu@nichino.co.jp

送金方法：

参加登録費は下記口座に申込み締め切り前にご入金下さい。
りそな銀行 金剛支店（店番224）

口座番号：0210878
 口座名義：日野智和（ひのともかず）
 ※同一の公的機関，企業名で複数名参加のときは，全員の所属，氏名を明記の上，1枚の振込用紙にまとめてご送金ください。
 尚，勝手ながら振込用紙の控えをもって領収書とさせていただきます。
 ※申込み締切り後のキャンセルは受付致しかねますので，ご了解ください。

第31回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会 農薬環境科学研究会
 日時：平成25年11月21（木）～22（金）
 場所：エクシブ琵琶湖 [〒521-0004 滋賀県米原市磯1477番2]
 TEL: 0749-52-6111 FAX: 0749-52-6126
<https://www2.wondernet.ne.jp/biwako/index2.htm>
 交通：東海道新幹線米原駅下車，タクシー又はシャトルバスで約10分
 北陸自動車道米原ICより車で約15分
 定員：100名程度
 URL：<http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky31.html>
 テーマ：農薬の環境負荷軽減をめざした取り組みと展望

趣旨：

農薬は現代農業には欠かせない農業資材であり，収量増加，労働力の軽減などに大きく貢献しています。その一方で，散布製剤に含まれている農薬原体やその異性体について，環境中への流出負荷には社会的な関心が強くもたれています。このような社会背景のもと，化学合成農薬と化学肥料の5割低減などを基準とした施策（2007年に「農地・水・環境保全向上対策」，2011年から「環境保全型農業直接支払対策」）が実施されています。

本研究会でも農薬の環境動態の解析を目的として，第29回（2011年）に「農薬環境中予測モデルの現状と適用の状況」，第25回（2007年）に「農薬の環境動態とモニタリング評価について」をテーマに研究会が開催されています。今回の研究会では，環境動態の知見を踏まえつつ，農薬原体による環境負荷削減の取り組みと，私たちが今後目指すべき方向のヒントとなる話題を講演者の方にご提供いただきます。皆様との議論を通して，環境負荷軽減に関する知識と理解をより深めることができれば幸いです。

プログラム（案）：

<11月21日（木）：1日目>

12:15～ 受付開始
 13:00～13:10 開会挨拶

13:10～13:55 特別講演「生物多様性からみた琵琶湖と人との関係：その過去・現在・未来」 川那部浩哉（元滋賀県立琵琶湖博物館館長）
 13:55～14:35 「農薬の環境行政の動向について」 更田真一郎（環境省農薬環境管理室）
 14:35～15:15 「農薬による水環境負荷軽減のための水管理方法とモデルシミュレーション」 渡邊裕純（東京農工大学）
 15:15～15:30 （休憩）
 15:30～16:10 「滋賀県における環境こだわり農業の取組と環境負荷低減効果の定量評価」 蓮川博之（滋賀県農業技術振興センター）
 16:10～16:50 「滋賀県の環境こだわり農産物認証制度とその経営経済的評価」 増田清敬（滋賀県立大学環境科学部）
 16:50～18:00 ポスター発表
 18:30～20:30 情報交換会（懇親会）

<11月22日（金）：2日目>

9:15～9:55 「キラル農薬の海外における登録規制状況について」 福島雅雄（住友化学株式会社）
 9:55～10:35 「農薬のキラル分析と環境動態」 小玉修嗣（東海大学理学部化学科）
 10:35～10:45 （休憩）
 10:45～11:25 「水道水質管理における農薬類の分類見直しとその分析方法について」 小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所）
 11:25～11:55 総合討論
 11:55～12:00 閉会挨拶
 午後 見学会（醒井養鱒場などを見学，16時頃解散予定）

※時間，演題は一部変更になる場合があります。

参加費（全日程参加）：

農薬学会員 21,000円

非学会員 25,000円

学生 10,000円

エクスカージョン参加費 3,500円（別途加算，昼食代を含む）

一部参加の場合は学会ホームページをご覧ください。

参加申込方法：

学会ホームページ（<http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky31.html>）から参加申込書をダウンロードのうえ，必要事項を記入し，2013年10月31日（木）までに，メールまたはFAXにて下記あてへお申し込みください。また，参加費は参加申込書に記載された銀行口座に11月8日（金）までにお振込み下さい。

参加申込先：第31回農薬環境科学研究会事務局
石原産業株式会社中央研究所 加藤康之あて
E-mail: y-kato@iskweb.co.jp, FAX: 077-562-4160

ポスター発表申込法：

学会ホームページ (<http://pssj2.jp/committee/kankyo/kanky31.html>) からポスター発表申込書をダウンロードのうえ、必要事項を記入して2013年10月4日(金)までにお申し込みください。また、発表要旨(雛形は上記学会HPからダウンロードできます)を2013年10月18日(金)までにメールにて下記あてへお送りください。

発表申込先：滋賀県立大学環境科学部 須戸 幹あて
E-mail: sudo@ses.usp.ac.jp

開催幹事(順不同)：

須戸 幹(滋賀県立大学)
川崎悦子(株式会社日吉)
藤澤卓生(住友化学株式会社)
加藤康之(石原産業株式会社)

問い合わせ先：

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科 須戸 幹
TEL: 0749-28-8334, FAX: 0749-28-8477, E-mail: sudo@ses.usp.ac.jp

第21回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主催：日本農薬学会 農薬レギュラトリーサイエンス研究会

日時：平成25年12月9日(月)10:00～17:00

会場：東京農業大学 百周年記念講堂 [〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1]

研究会参加費：4,000円(予定)

情報交換会費：4,000円(予定)(研究会終了後)

URL：<http://pssj2.jp/committee/regula/regula21.html>

テーマ：土壌残留，作物残留に関する農薬登録制度の現状と取組み(仮題)

現在，土壌残留や作物残留(分析部位，後作物残留等)に関して試験方法や登録要件の検討がなされています。制度上の課題や検討結果を踏まえての試験方法，評価方法，登録要件の変更等について話題を提供していただく予定です。

講演者については現在検討中です。

参加申込先：農薬レギュラトリーサイエンス研究会 星野敏明 (pssj_reg_science@yahoo.co.jp)

参加申し込み：氏名，所属，情報交換会の参加の有無をご連絡ください。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp